

建築科

快適な住空間づくりの技術を3年間で

私達の周囲には、さまざまな種類の建築物があります。戸建て住宅をはじめとして、集合住宅・学校・病院・図書館・店舗・事務所など人間が生活を営むためには必要なものばかりです。これらを設計し造っていくのが建築の仕事です。

自分が関わった建物がその地に残り、そしてそこで暮らす人たちの役に立つ、建築はそんなやりがいのある仕事です。

1 建築科の目指すこと

- (1) 建築の文化的・社会的意義を理解するとともに、建築を中心として工業全般にわたる知識・技術の習得を目指します。
- (2) 将来、建築技術関係部門に進んで、建築物の設計監理・施工管理・建築行政などの業務を担当できる技術者を育てます。



工業高校生の考える夢のマイホーム



競技設計応募案：入賞作品
第9回「わたしの住まいリフォーム・デザイン案
コンテスト2017」

2 学習内容

建築科では、普通教科を6割、専門教科を4割学びます。

建築科目には、木造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造などの建築物のしくみを学ぶ「建築構造」、いかに快適で使いやすい建築物にするかを学ぶ「建築計画」、台風や地震にも負けない安全な建築物かどうかを検討する「建築構造設計」、具体的にどのような手順や方法で建築物をつくるかを学ぶ「建築施工」などに加え、実験して確認したり体験を通して学ぶ「建築実習」、各科目の知識を総合して図面化する「建築製図」などがあります。



建築科3年の製図作業

建築物の形を表現したり、工事に関わる人たちが建物について共通理解するツールとして図面が使われます。建築科では図面を書くことを中心に3年間学びますが、書くために必要な専門的知識をしっかり身に付けていくことが大切です。

浜工では、1年がT定規と三角定規、2・3年が製図器具を使って手書き図面を学びますが、実社会ではほとんどがCAD（コンピュータを使っの作図）に移行しているため、1年からその練習もできるようにしています。

3 卒業後に取得できる資格

建築に関係する国家資格の代表的なものは、「建築士」と「建築施工管理技士」です。

建築士は、建築物を設計したり、工事が適切に実施されているかをチェックするのに必要な資格です。建築物の大きさや種類により、1級建築士・2級建築士・木造建築士の3つに分かれています。

建築施工管理技士は、工事現場の責任者になるのに必要な資格で、1級施工管理技士・2級施工管理技士の2つに分かれています。

これらの試験を受験するためには、建築設計や建築現場監督など建築に関しての実務経験が必要です。

浜工建築科を卒業すれば、3年間の実務経験でそれぞれの2級の受験資格が得られます。また、2級施工管理技士の学科試験は在学中に受験することができます。



建築実習：現場見学

4 就職と進学

建築科卒業生の進路は、例年、就職が概ね60%で、進学が40%という割合になっています。

就職先は、建設会社が最も多く、その他は建築設計事務所・建材販売・建築設備会社などです。

進学先は、四年制大学や専門学校などの建築系学科です。国立大学進学者や国立高専の4年生に編入する者もいます。



構造実験用軸組製作



施工実習での足場の組立て

先輩のメッセージ1

私は現在、大学で建築を学んでいます。小学生の頃から何かものをつくるのが好きで、将来ものづくりに関わりたいと思った私は、浜工建築科で設計することの楽しさを学びました。設計に限らず、建築を通したものづくりは限りなく広い範囲に及びます。興味のあることを学び、知識を深め、ものづくりの楽しさを味わってください。そして建築科で可能性を広げてください。

日本大学 佐野智香(建築科H29年度卒 佐鳴台中学出身)

先輩のメッセージ2

私は、設計事務所で現場監督をしています。小学校の時から新聞広告に載った住宅の間取りを見ることが好きだった私は、浜工で実際に木造住宅を設計する課題で、その大変さを知りましたが、同時に完成したときの達成感も味わうことができました。将来のことを決めるにはまだ早い時期でしょうが、何か一つ自分が頑張りたい目標を掲げ、浜工で、それに向かって突き進んでほしいと思います。(株)アイズホーム 森元麻維(建築科H29年度卒 開成中学出身)